

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

Created by ふたわーくす



狙っていた爆乳の
後輩〇しが**風俗墮ち!?**
～チンポの**快樂**に**墮**ちた彼女～

フルカラーCG集

基本 **21**枚

**この物語はフィクションです。
登場する人物・団体等は架空であり
実在の者とは一切関係ありません。**

俺は今、会社の後輩の瀬名川さんと
ホテルの二室にいる。

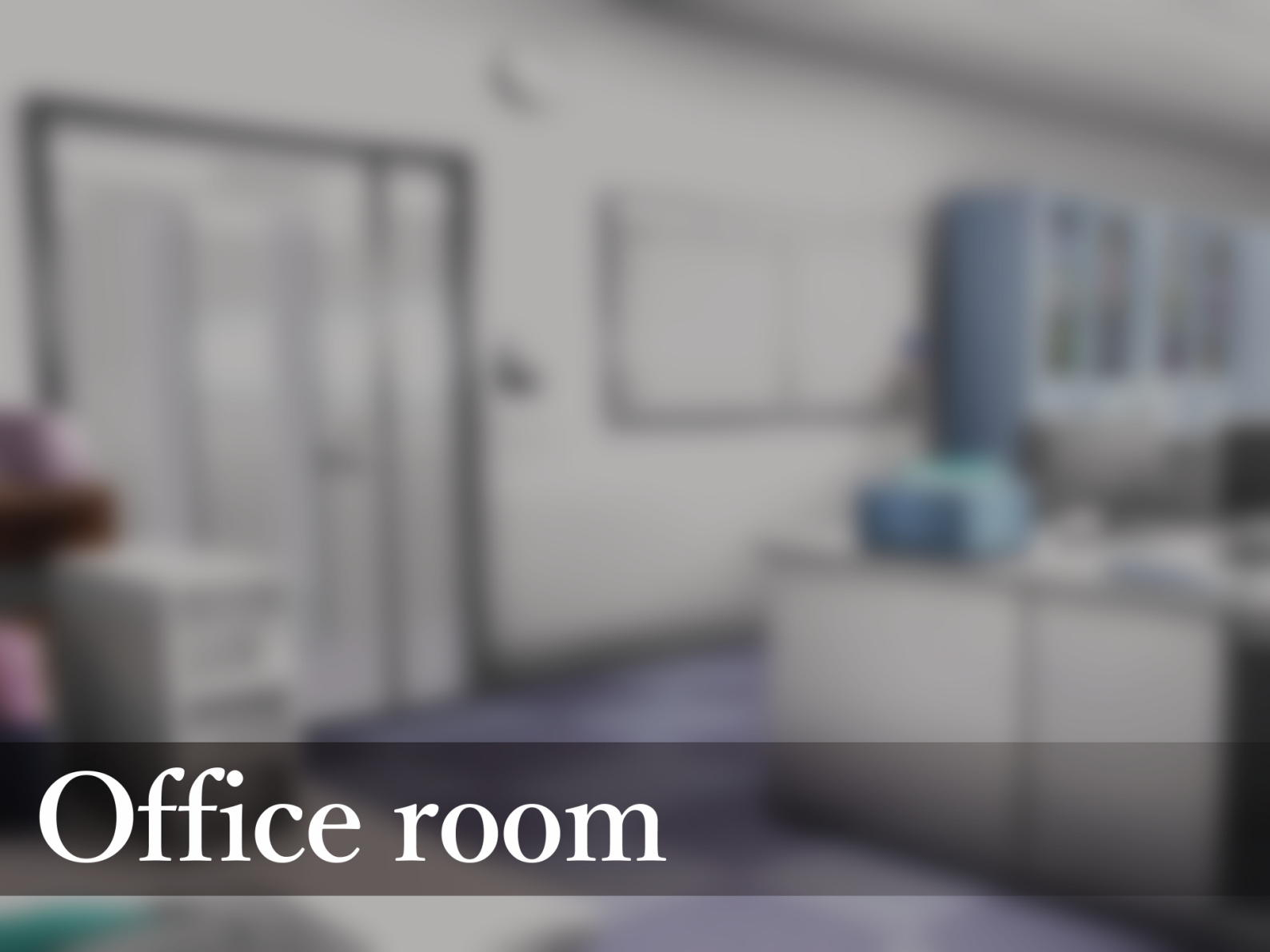
「センパイっ…♡」

プライベートでは関わりのなかった彼女。
俺たちは、一体どうしてこんな状況に……。



Episode.1

会社の後輩と バッテリー...♡



Office room

俺はこの会社で働いている。
生活のために興味もない
自社製品の売り上げに貢献している…。

この仕事にもやっと慣れてきた頃、
俺にも後輩がつくことになった。

「……センパイ？」

ふと、澄んだ声が俺を呼ぶのが聞こえた。

「センパイ、聞いてます？」

掛けられた声にふと我に返る。

「ああ…瀬名川さん、なんだい？」

「えっと………ここなんですけど………」



彼女が新しく俺の後輩となった、
せながわしおり
瀬名川汐里さんだ。

彼女の容姿はとてもハイレベルで
社内でも噂になるほどだった。



特に胸が大きく、スーツの上からでも
その大きさは伝わってくる。
間近で見ると思わず視線が胸に……。

「ありがとうございます。
センパイの説明、
とてもわかりやすかったです。」

「ああ、こちらこそ。
教え甲斐があるよ。」



彼女は礼儀正しく一礼すると
自分のデスクに戻っていった。

ただのスーツやタイツなのに
エロく感じてしまうな……。

煩惱を振り払い、俺も仕事に戻る。



でも、瀬名川さんのような
可愛い彼女ができたらなあ……。

などと頭の片隅で思いながら
残りの仕事をこなしていった。

数日後...



Hotel room

とあるホテルの一室。

女に縁のない俺は、休日にもラムラして
手コキ風俗に遊びに来ていた。

店員におすすめされた、
新人のセナちゃんというコを指名した。

どんな子が来るんだろう。。。。
こういうのは待っている間が
一番テンションが上がる気がする。。。。

しばらく待っていると、
個室にドアがノックされる音が響いた。

「失礼します…」

何か聞き覚えのある響きの声。

ドアを開け目に入った光景に、
俺は驚きで固まってしまった。

彼女の纏う服装こそ違えど、
その姿は間違いなくあの瀬名川さんだった。



「セナです、
よろしくおねがいしま……。」

伏し目が入ってきた彼女は
目線を上げると……。

「センぱ……あっ」

思わず口に出た言葉が
墓穴であることに気が付いたようだ。



それにしてもどうして
瀬名川さんがこんなところに……。

すると俺が聞く前に
彼女は捲し立てるように喋り始めた。

「いや、これは、そういうことじゃなくてっ
ちよつと割のいい小遣い稼ぎだつて
友だちに紹介されたつていうか…

ええつと……あう……」

あせ

あせ

知り合いが店に来たことがないのだろう、
明らかに動揺している……。

とりあえず彼女を落ち着かせる。

改めて彼女のカラダをまじまじと見る。

普段はスーツに隠されている
巨乳やスラリとしたおなかが
露わになっている……。



まさかの展開に俺も少し焦ってしまったが、
この状況は逆に、
かなり当たりなんじゃないか……？

払うものは払っているんだ、
たとえ部下だろうと知り合いだろうと
ここで退くわけにはいかない！

彼女の片手を握る。

彼女はこちらの意図を察したようだった。

ズン

ドキ

「でも……」

「私なんかでいいんですか？」

彼女の声色は

少し戸惑いと恥じらいの色を含んでいる。

「うん…。セナちゃん……。いや、
瀬名川さんにしてほしいな。」

ストリートに今の感情を彼女にぶつける。



「……。っ、わかりましたっ。
ありがとうございます、それじゃあ……。」

少し照れた様子で、彼女は俺のズボンを
下ろし始めた。

スベスベな細い指が俺の息子にそつと触れる。

「こ、こんな感じでいいですか？
（これまでのちんぽより熱くて
ドクドク脈打ってる……）」

じゅっ♡

じゅっ♡

ズンっ♡

「いい感じ、そのまま動かして……」

「わ、わかりましたっ……」



溜まっていた性欲に加えて、
普段下心を持っていた部下にしごかれている
シチュエーションで更に興奮が高まる…。

あゝ♡

しなやかな指が亀頭から竿全体を
まんべんなく刺激する。

彼女はまた恥ずかしいのか、
時折り小さく声を上げている……。

にぎにぎ♡



「だんだん早くしていきますね……」

「あ、ああ。」

俺も少しずつ余裕がなくなり
短く答える。



彼女の汗ばんだ手が
更に気持ちよさを増している。

我慢汁と彼女の手汗が混ざり、
部屋に卑猥な水音が響き始めた。

「はあはあ……♡(センパイ……♡
凄いいくびくして気持ちよさそう……)」

彼女は時折り目をそらしながらも
勢いをつけて扱き続ける。



彼女の手の平は摩擦で熱を持ち、
動く指は絡みつくようにで
だんだん射精感が込みあがってきた……。

「うっつダメだっ、
もう射精るっつ!!」

「きゃっつ♡」

ひゅっ♡

温かい手の平の感触を感じながら
思い切り射精する。。

Flow

「たくさん出しましたね…♡
（あったかいのがいっぱい♡
しかも出した後なのにまだギンギン……）」

射精したザーメンが彼女の身体に降り注ぐ。

はぁ♡

はぁ♡

ドクッ♡

ドクッ♡

激しくシゴいていた彼女も
少し息が上がっている……。

部屋のティッシュで精液を拭くと
彼女は照れたように呟いた。

「時間、まだありますね……」

ドキ♡

ドキ♡

「ずっと見てましたけど
わたしのおっぱい、
興味ありますよねっ?♡」

いき♡

いき♡

そう言いながら、はちきれんばかりの
片乳を露出させる。



「おお……」

彼女の綺麗な乳房が露わになる。
大きな乳輪に可愛い乳首が
ぷくりと膨れている。

カマ……♡

んっ♡

「そんなに見られると
恥ずかしいですよ……」

たぶ♡

普段見る態度と打って変わって
照れ倒している姿も可愛い。

「いや、でも凄い綺麗だよ……」



彼女もスイッチが入ってききたみたいだ。

「それじゃあ、私のおっぱいで
ご奉仕しますね……♡」

へっへっへっ

ぱくぱく

そう言々と俺の元に近づき、
重量感のある両乳で
俺の息子を挟み込んだ。



「あえ……♡」

あえ♡

と、彼女はペニスを胸に挟むと、
小さな口に唾液をためると
谷間に垂らしてゆく。

ん♡

ん♡



「んっ………(胸の中でおちんぽ
ドクドク脈打ってるっ………♡)」

「すごい柔らかくて…気持ちいい………」

んっ♡

ハァ

彼女は両手からも
溢れるほどのおっぱいを
ユサユサと動かし始める。

ヤッぱんっ♡

胸の谷間はしっとり蒸れ、
マシユマロみたいに柔らかい……。

「センパイの、
すごいビクビクなってますよ?」

「だって…瀬名川さんのおっぱい柔らかくて
気持ちいいからっ」

「なんか言い方変態ぽいです♡」

ダッパ♡♡



「パイズリっ……気持ちいいですかっ？」

「あぁっ、気持ちよすぎて
腰が抜けそうだっ……」

ダパッ♡

♡♡♡♡

「（センパイ、指に力入って……
思わずかんじゃって可愛い♡）」

ダパッ♡

刺激に変化をつけながら
吸い付くような両乳に射精感を高められる…。

「ああ……」

「このままじゃ…俺、もう……っ」

「いいですよっ」

「そのまま出してくださるっ♡」

パチュン♡

「くっ……
もう射精するッ…!!」

「んっ
ビクッ
んっ」

「あああッ……!!」
「だっ
んっ
んっ」



「びゅー♡びゅー♡
射精できてえらいですよ♡」

乳圧で尿道の精子を
すべて搾り取られた…。

「濃ゆいの

たくさん出ましたね♡

どれだけ溜めてたんですか、っもう……♡」

なに

ドクッ♡



「本当は手と口までが
ウチのルールなんですけど……」

一息ついた後、ボソリと彼女が呟いた。

ドキ♡

ドキ♡

しゅ♡

「二方的に秘密を知られてるのも
アレなので……、センパイにも
弱みを握られてもらおうかな?♡」

そ、それってまさか……。



「せっ、瀬名川さんっ!!」

てれっ!!

しゅっ

彼女の言葉で興奮した俺は
そのまま彼女を押し倒す。

「やっ…ん、もう
ガッツきすぎですっ♡」

ガバッ





体験版はここまでになります！
彼女が**生チンポの快樂**に**墮**ちていく様子は
ぜひ、**製品版**にてお楽しみください♡

大ボリュームのプレイ内容... コスプレ・アナルビーズ...



実用性の高い高画質のCG集♡
製品版は文字無しの差分も収録！